

Physical History Research Project (PHRP)
Prof. Dr. Satoshi Murayama
Kagawa University
Saiwai-machi 1-1, Takamatsu, Kagawa
760-8522 JAPAN

南ボヘミア州における観光とエコツーリズム*

原 直行

nhara@ec.kagawa-u.ac.jp

村山 聡

muras@ed.kagawa-u.ac.jp

*本稿は、平成19年度香川大学学長裁量経費「特別奨励研究」「歴史的溜池経済地域における超学際的エコツーリズムー南ボヘミアと備讃瀬戸の持続的比較研究ー」（研究代表者：香川大学教育学部教授 村山 聡）の研究成果の一部である。南ボヘミア州における関係者へのインタビュー等のコーディネーションを引き受けていただいた南ボヘミア大学講師・ヨゼフ・グルーリヒ（Josef Grulich）博士をはじめ南ボヘミア州の観光に関する資料提供、インタビューに応じて頂き、チェコ語で解説された図表などについて詳しい説明を受けた南ボヘミア州観光協会のジトカ・ファトコヴァ（Jitka Fatkova）ならびにヤクブ・カドレツク（Jakub Kadlecěk）の両氏に特に感謝したい。

1. 南ボヘミア州の概況

南ボヘミア州はチェコ共和国の南部に位置し、南部でオーストリアと南西部でドイツと国境を接している。総面積は10,056km²であり、チェコの12.8%を占め、2番目に大きい州である¹。人口は63万人（2003年現在）であるが、人口密度は1km²あたり62人とチェコの州ではもっとも少ない。州都はチェスケー・ブジェヨビツェであり、623の町村からなる（そのうち町は45）。南ボヘミア州は自然と歴史・文化遺産に恵まれ、南部にはスマバ山脈が広がり、その一角は自然公園にも指定されている。また、有名なモルダウ川も流れている。一方、歴史・文化遺産については、その長い歴史から城や城下町、中世以来の町並みが各地に残っている。有名なところでは世界遺産に登録されているチェスケー・クルムロフ、ホラショヴィツェがある。

このように自然、歴史・文化遺産に恵まれている南ボヘミア州では近年、観光振興にも力を入れ、外国からの観光客も多く、お城や町巡り、自然の中でのサイ

¹ チェコ共和国は中央プラハと13の州からなっている。

クリング、ハイキング、カヌー、冬季のスキーなどが行われている。また、トレボンやベヒニェといった温泉保養地もある。

2. 南ボヘミア州の観光—アンケート分析を中心に—

(1) 観光客の動向

南ボヘミア州の観光客は、2004年に100万人を超え、2006年では110万に達し、多少の上下はあるものの、増加傾向にある²（第1表参照）。

第1表 南ボヘミアの観光客の動向

	観光客数	外国人観光客比率
	人	%
2000	937,050	23
2001	919,198	26
2002	795,555	31
2003	937,454	26
2004	1,068,596	30
2005	1,023,289	32
2006	1,101,216	30

第2表 南ボヘミアの国別外国人観光客（2004年）

		人	%
1	ドイツ	92,409	29
2	オランダ	36,641	12
3	オーストリア	28,827	9
4	フランス	28,458	9
5	アメリカ	15,741	5
6	イタリア	14,207	4
7	スロヴァキア	10,033	3
8	ポーランド	7,648	2
9	イギリス	7,105	2
10	オーストラリア	6,646	2
11	日本	6,292	2

そのうち外国人の観光客が20～30%を占めている。一般的に冬季に比べて夏季のほうが、外国人の比率が高い。国別でみると、2004年ではドイツ（外国人客の29%）、オランダ（12%）、オーストリア（9%）、フランス（9%）、アメリカ（5%）の順であり、ヨーロッパ諸国、とくに国境を接している隣国からの観光客が多い³（第2表参照）。ちなみに日本は11番目、比率にして2%を占め、ヨーロッパ以外の国ではアメリカ、オーストラリアに次いで3番目に多い。

以下では、毎年夏と冬に観光客を対象にチェコ共和国観光局が実施している地方別アンケート調査の結果を基に、南ボヘミア州における観光を概観する。

² ただ、チェコの観光客のうち南ボヘミアのその占める割合は8.5%前後でほぼ一定している。

³ 6番目以降の国は、イタリア、スロヴァキア、ポーランド、イギリス、オーストラリアの順である。やはりヨーロッパの国が中心である。

(2) 年齢階層別

年齢階層別の比率をみると（第3表参照）、35-49歳の比率が33%と最も高く、次いで26-34歳が26%となっており、両方で約6割を占める。その一方で、50-59歳が17%、60歳以上が8%と一定程度を占めており、幅広い年齢層から観光客があることがわかる。（2006年夏データ）

第3表 年齢階層別観光客の動向 (単位：%)

	～25歳	26～34歳	35～49歳	50～59歳	60歳～
2006夏	16	26	33	17	8
2005冬	21	25	28	16	10
2005夏	20	27	32	14	7

(3) 誰と観光しているか

誰と観光しているかをみると（第4表参照）、夫婦・友人と観光している客が51%と半分を占めている。その一方で、一人で観光が21%、16歳以上の子ども連れの観光が13%、15歳以下の子ども連れの観光が15%となっている。夫婦・友人が中心であるが、一人や16歳以上の子ども連れの観光が一定程度を占めていることが特徴であるといえる。（2006年夏データ）また、2005年冬データによると、夫婦・友人、子ども連れの観光が減り、一人が40%まで増加する。

第4表 誰と観光したのか (単位：%)

	夫婦・友人	一人	子ども（16歳以上）	子ども（16歳未満）
2006夏	51	21	13	15
2005冬	42	40	8	9
2005夏	53	17	15	15

(4) 移動手段

移動手段についてみると（第5表参照）、チェコ国内からの移動、外国からの移動もともに車が64%を占め、もっとも高い。次いで、国内では鉄道16%、公共バス12%となっている一方、外国では観光バス16%、鉄道7%となっている。南ボヘミア州は鉄道網が充実していないことから、国内からの移動でも車が主になっていることがわかる。（2006年夏データ）

第5表 観光客の移動手段

(単位：%)

		車	鉄道	公共バス	観光バス	自転車	その他	徒歩
2006夏	国内	64	16	12	2	4	1	
	外国	64	7	6	16	2	5	
2005冬	国内	57	17	20	3	1	0	2
	外国	64	12	6	13	0	5	
2005夏	国内	62	14	10	4	8	1	2
	外国	61	9	5	18	3	4	

(5) 宿泊日数

宿泊日数についてみると（第6表参照）、3-7泊が30%ともっとも高い。次いで多いのが日帰りで29%である。1-2泊23%を含めると、半分強の客が2泊以内であるが、残りの半分弱は3泊以上している。8泊以上の宿泊客も19%と2割近い。この傾向は、国内からの観光客に比べて外国からの客のほうが強いが、基本的には大きな相違がない。（2006年夏データ）また、冬季では日帰り（37%）、1-2泊（28%）の比率が高まる傾向にある（2005年冬データ）。

第6表 観光客の宿泊日数

(単位：%)

		日帰り	1-2泊	3-7泊	8泊以上
2006夏	全体	29	23	30	19
	国内	30	23	30	17
	外国	26	24	28	22
2005冬	全体	37	28	17	18
	国内	39	29	14	18
	外国	27	21	33	20
2005夏	全体	35	29	25	12
	国内	36	29	25	10
	外国	29	29	26	15

第7表 宿泊施設の種類の

(単位：%)

		日帰り	3ツ星以上	3ツ星未満	ペンション	間借り	親戚訪問	他の施設	キャンプ
2006夏	全体	25	10	5	19	9	13	6	
	国内	29	6	2	21	9	16	8	
	外国	18	20	11	16	10	8	3	
2005冬	全体	36	8	4	18	6	16	13	
	国内	38	5	4	18	5	16	14	
	外国	24	19	5	21	9	13	8	
2005夏	全体	32	8	7	13	9	11	7	13
	国内	34	5	5	13	9	13	7	14
	外国	29	16	13	13	7	4	8	12

(6) 宿泊施設

宿泊施設の種類についてみると（第7表参照）、日帰りを除くとペンションが19%ともっとも高い。次いで親戚訪問13%、3ツ星以上のホテル10%、間借り9%の順となっている。一般的にホテルより格安なペンション、炊事設備付きの間借りなど、滞在日数が多いためか宿泊施設にかかる費用は抑える傾向にある。この傾向は国内からの観光客のほうが顕著である。一方、外国からの観光客の場合、ペンション（16%）よりも3ツ星以上のホテル（20%）のほうが高く、また、3ツ星未満のホテル（11%）も高い。（2006年夏データ）

(7) 滞在費用

滞在費用についてみると（第8表参照）、201～500ck、501～1,000ckがそれぞれ30%を超え、大部分を占めていることがわかる。次いで多いのが200 ck以下（19%）である。ただし、国内からの観光客と外国からの観光客とを比較すると、国内では201～500ckをピークに山型の構成比になるのに対して、外国では501～1,000ckをピークに山型の構成比になる。これは外国からの観光客のほうが、宿泊日数が長いこと、3ツ星以上のホテルに宿泊する比率が高いことなどによるものであろう。（2006年夏データ）

第8表 滞在費用

(単位：%)

		～200ck	201～500ck	501～1,000ck	1,001～2,000ck	2,001ck～
2006夏	全体	19	34	32	11	5
	国内	25	37	28	7	2
	外国	6	26	40	19	9
2005冬	全体	18	30	31	17	5
	国内	20	30	31	16	3
	外国	7	26	31	23	14
2005夏	全体	13	36	37	11	3
	国内	16	41	34	7	2
	外国	3	17	47	26	7

(8) 滞在中の活動

滞在中の活動についてみると（第9表参照）、国内からの観光客、外国からの観光客とも学習がもっとも高く、とくに外国からの観光客では73%と際立って高い。学習の内容は自然や歴史的地域の訪問などである。次いで比率が高いのが「歩く」であり、両者とも30%前後である。「歩く」に次いで、サイクリングの

比率が高い。他にはウォータースポーツ（カヌー、カヤック、ラフティングなど）、アミューズメント（コンサートなど）などがあげられる。一般的にヨーロッパでは、よく街中や田園、森などを散歩している人が多いが、南ボヘミア州でも自然や歴史・文化遺産に恵まれており、その中で散歩を楽しむ観光客が多いと考えられる。また、サイクリングやウォータースポーツの比率が高いのは、森林、川、湿地、ため池、田園など変化に富んだ自然が多く、それが観光資源として活かされているからであろう。牧場での乗馬など「アグリ」の比率は低いが、サイクリングやウォータースポーツ、また、「歩く」の一部も自然の中で行われていることを考えれば、狭義のグリーン・ツーリズム（「アグリ」のみ）ではなく、広義のグリーン・ツーリズム、あるいはエコツーリズムはかなり盛んである。（2006年夏データ）

第9表 滞在中の活動

（単位：％）

		学習	文化	歩く	サイクリング	スポーツ (トライアス)	ウォータースポーツ	ウィンタースポーツ	その他のスポーツ	アミューズメント	スパ	アグリ	宗教
2006夏	国内	48	19	33	30	3	26	1	3	21	10	3	3
	外国	73	9	29	20	1	19	1	5	16	3	7	6
2005冬	国内	43	23	39	20	6	15	7	5	29	21	9	5
	外国	73	24	27	13	4	4	7	2	26	7	21	11
2005夏	国内	54		42	36	5				15	8	8	
	外国	80		38	31	5				14	4	7	

※基準変更のため一部（2005年夏季データ）は比較できない

（9）観光客の評価

また、サービス、インフラ・設備、観光開発について4段階評価で訊いている⁴（第10表～第12表参照）。これによると、大部分の項目について、「大変よい」、「まあまあよい」という評価が60～90％であるが、「良くない」、「非常に悪い」という評価が20～30％を占めた、比較的高かった項目をみていくと、サービスでは車が、インフラ・設備では交通インフラ、ショッピング、アミューズメントが、観光開発ではイベントがあげられる。観光客の6割以上が車で来訪するが、その交通インフラの評価が低いことは早急な対応が求められるところである。また、ショッピング、アミューズメント、イベントの評価が低いことは観光客の訪問先での過ごし方を工夫する必要があることを物語っている。

⁴ 4段階評価の他に、「わからない」という評価もある。

第10表 サービスの評価

(2006夏・全体)

(単位：%)

	大変よい	まあまあよい	よくない	非常に悪い	わからない
アコモデーション	29	33	4	0	33
レストランで食事	39	45	7	0	9
サービス(車)	19	34	13	2	32
サービス(自転車)	25	29	6	1	39
サービス(スキー)	2	5	2	3	88
スタッフ	35	42	8	1	14
清掃	42	42	11	2	3
価格	35	47	11	2	5

(2005冬・全体)

(単位：%)

	大変よい	まあまあよい	よくない	非常に悪い	わからない
アコモデーション	31	23	2	0	43
レストランで食事	42	44	4	1	9
サービス(車)	8	36	20	3	33
サービス(自転車)	16	25	8	1	51
サービス(スキー)	9	15	5	11	60
スタッフ	35	43	4	1	17
清掃	34	45	15	3	4
価格	24	54	14	2	7

(2005夏・全体)

(単位：%)

	大変よい	まあまあよい	よくない	非常に悪い	わからない
アコモデーション	23	30	5	1	41
レストランで食事	31	53	6	1	9
サービス(車)	8	34	22	2	33
サービス(自転車)	18	25	9	1	47
サービス(スキー)	2	4	3	5	87
スタッフ	29	41	11	1	19
清掃	29	49	15	2	4
価格	23	50	20	3	4

第11表 インフラ・設備の評価

(2006夏・全体)

(単位：％)

	大変よい	まあまあよい	よくない	非常に悪い	わからない
アコモデーション	28	37	4	1	30
食事	42	42	5	0	11
交通インフラ	22	41	19	3	15
公的交通手段	21	30	12	3	34
スポーツ	26	37	9	1	27
ショッピング	31	39	16	4	10
アミューズメント	33	40	10	1	15
子供向け設備	20	28	8	2	42

(2005冬・全体)

(単位：％)

	大変よい	まあまあよい	よくない	非常に悪い	わからない
アコモデーション	34	35	3	0	27
食事	43	42	4	0	12
交通インフラ	10	41	26	5	18
公的交通手段	12	28	19	4	37
スポーツ	12	36	14	2	37
ショッピング	28	47	15	3	7
アミューズメント	18	38	22	5	17
子供向け設備	7	17	16	4	57

(2005夏・全体)

(単位：％)

	大変よい	まあまあよい	よくない	非常に悪い	わからない
アコモデーション	24	34	6	0	35
食事	35	50	7	1	7
交通インフラ	10	39	31	4	16
公的交通手段	8	20	17	6	49
スポーツ	15	37	14	1	33
ショッピング	21	42	24	4	9
アミューズメント	17	39	20	3	21
子供向け設備	7	19	14	3	57

第12表 観光開発の評価

(2006夏・全体)

(単位：%)

	大変よい	まあまあよい	よくない	非常に悪い	わからない
インフォメーション	50	39	4	0	7
標識	48	39	10	1	4
歴史遺跡の保護	46	41	8	1	5
環境保護	34	40	11	1	14
安全	29	33	9	1	28
イベント	32	39	10	1	17
おみやげ	39	44	9	2	6
地元のホスピタリティ	48	38	6	1	7

(2005冬・全体)

(単位：%)

	大変よい	まあまあよい	よくない	非常に悪い	わからない
インフォメーション	41	40	3	0	16
標識	40	45	8	1	6
歴史遺跡の保護	42	41	6	1	9
環境保護	32	41	11	2	14
安全	27	33	10	2	28
イベント	22	41	19	3	15
おみやげ	26	49	13	2	10
地元のホスピタリティ	49	35	5	1	9

(2005夏・全体)

(単位：%)

	大変よい	まあまあよい	よくない	非常に悪い	わからない
インフォメーション	38	40	12	0	10
標識	37	45	12	1	5
歴史遺跡の保護	39	43	9	1	8
環境保護	32	41	10	1	15
安全	22	29	9	2	38
イベント	19	39	20	1	22
おみやげ	35	43	13	1	7
地元のホスピタリティ	45	39	7	2	7

(10) まとめ

以上の分析をまとめると、30代・40代を中心に幅広い年齢層の人が夫婦・友人、もしくは家族（子連れ）、一人で、車で来訪し、1,000円未満の費用で日帰りから一週間以上ペンションなどに滞在し、自然や歴史的地域を訪問したり、ウォーキング、サイクリングをしている。このように観光客層は幅広く存在して

いる。また、交通インフラのほか、ショッピング、アミューズメント、イベントについての観光客の評価が低いなど、今後の観光振興では観光客の訪問先での過ごし方を工夫する必要がある。

3. トレボンにおけるエコツーリズム⁵

南ボヘミア州におけるエコツーリズムの実態を調べるために、2007年7月上旬に南ボヘミア州内のトレボンにおいて、景観保全地域内のサイクリングコース内を巡るサイクリングを体験してきた。トレボンにおけるサイクリングは、豊富な自然の中を巡る、南ボヘミア州における代表的なエコツーリズムである。

(1) トレボン景観保全地域の概況

トレボン景観保全地域はチェコ南部でオーストリアと国境を接している。同地域一帯は1977年にユネスコ生態区域保全地区に加入し、1979年に景観保全地域となった。同地域の面積は約700 km²であり、その半分弱は二次林で覆われ、1/10は水—ため池、川、運河—に覆われ、残りは人為的活動—畑、牧草地、道路、村落—の影響下にある。

トレボン景観保全地域はチェコの他の保全地域とは異なって、中世以来、人間によってきわめて集約的に変形・修正された景観地域である。だが、人為的干渉は主要な自然の機能に影響を与えるほどではなく、景観は二次均衡に達したのであった。すなわち、13世紀以降、森林が部分的に伐採され、湿地の排水も行われて人工のため池と運河に作り変えられたのであるが、ため池の堤防が本来の生物生息地に代替できたように、湿地に生息する生物や鳥などの動植物の絶滅には至らなかったのであった。この人間と自然との特殊な相互関係の長い歴史が多様なモザイク状の人工・本来の生物生息地を生み出したのであり、このような比較的小さい地域における動植物の集中がみられたことは、中央ヨーロッパにおいてきわめてユニークである。

また、トレボン景観保全地域のもっとも価値の高い地域は、National Nature Reserves、Nature Reserves、Nature Monumentsとして保護されている。

(2) エコツーリズムの実態

トレボン景観保全地域でサイクリングによるエコツーリズムを行う場合、サイクリング用自転車はトレボンの町中のキオスクなどでヘルメットとともに借りることができ、レンタル料は時間ごとに設定されている（1時間30～40 ck）。

⁵ Jan Sevcik (translated by Ivana Nedbalova), *Outdoors in the Trebon Region –A Guide to Hiking and Cycling–*, The Trebon Healthy City Center, 1994, p.9を参照。

また、町中のインフォメーション・センターや本屋において、チェコ語に限らず、ドイツ語、英語等の他のヨーロッパ言語版で、サイクリング用マップやトレッキング用マップ、さらに代表的なサイクリング・コースやトレッキング・コースを載せたガイドブックが数種類販売されており、容易に入手できる。各ガイドブックには10～20コースが紹介され、また各コースには10～20の地点が示され、その地点における自然・歴史・文化・産業などの特徴がわかりやすく解説されている。



写真1：原撮影、2007年6月29日金曜日

写真1では、若者や子供、そして老人も含めて、ツアーを先導するガイドに従ってツーリズムを楽しんでいる団体もあり、また、我々のようにもちろん各自で自由に森の中（写真2）やため池や湖畔の風景（写真3）を楽しみながら、サイクリングを楽しむことができる。

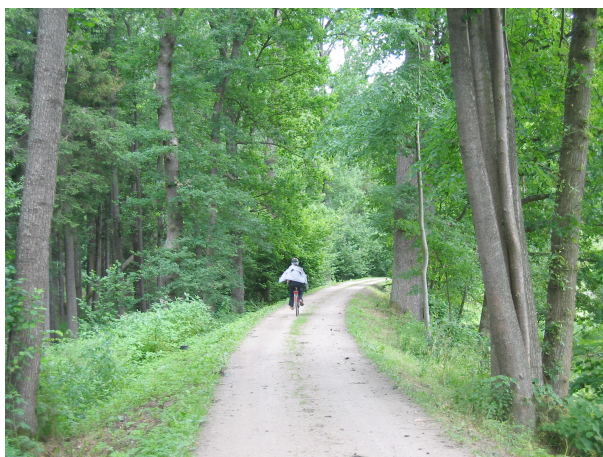


写真2：原撮影、2007年6月29日金曜日



写真3：原撮影、2007年6月29日金曜日

以上のように、トレボンにおけるエコツーリズムは、同地域を初めて訪問した外国人観光客でも容易に体験でき、その自然（森林・川・湿地・ため池）や歴史・文化を十分に堪能でき、かつ、自然や歴史・文化を持続できる観光形態であることがわかる。

4. 香川県におけるエコツーリズムへの応用可能性—まとめに代えて—

最後に、香川県におけるエコツーリズムへの応用可能性についてふれたい。

香川県においても、トレボンほどの資源ではないにせよ、海と山に囲まれた豊富な自然資源を有し、さらには歴史的人工遺産であるため池が1万5,000個も存在し、その大部分は今でも農業生産やその他の多面的機能をもっている。これらの資源を観光にいかそうと県内でも多くの施設整備がなされてきたが、それらはハード整備が中心であり、地域の自然や歴史・文化をなるべくそのままの形態で持続するという視点が弱かったことは否めない。だが、近年の財政難と住民主体の地域活性化の動きは、これまでの地域振興、観光振興に大きな変更を迫っている。その流れにトレボンにおけるエコツーリズムのような、地域の自然や歴史・文化を持続しながら、それらを楽しむ観光振興を実施していくことは十分可能である。

具体的には、ハイキング・コースやサイクリング・コースを県と住民が協力して整備するとともに、その地域の自然や歴史・文化の紹介をも載せたハイキング・マップやサイクリング・マップを作成し、県内の書店等で販売することである。すでにハイキング・コースについては、山歩きやお遍路用のものが何冊か販売されているが、ため池なども含めた、より地域の自然や歴史・文化を紹介したものにすべきである。そして、そのためには何よりも県と県民（住民）の意識改革が求められる。

参考文献

Jan Sevcik (translated by Ivana Nedbalova), *Outdoors in the Trebon Region —A Guide to Hiking and Cycling—*, The Trebon Healthy City Center, 1994

南ボヘミア州観光協会資料（同州の案内パンフレット、および観光客に関する調査資料）。とくに第3表から第12表については、毎年夏冬2回実施する観光客に対するアンケート調査の結果である。なお、同アンケート調査の結果は、チェコ語表記であるが、www.CzechTourism.cz のサイトでも確認できる。